

この度、志を一つにするピアノ指導者が相協力して地元の川西市、池田市を中心とした北摂支部を設立し、去る3月2日に無事発会式を終え、順調なスタートを切る事ができました。これも福田先生、下村事務局長様を始め本部の方々の暖かいご支援の賜物と大変感謝致しております。また幸運な事に、神戸大学助教授でいらっしゃる鈴木正幸先生が顧問を心よく引き受けてくださり、今後お世話になる事となりました。本当にありがたい事でございます。

さて、私が支部を設立しようと思いましたが理由は、まず「子どもたちに教える」という重大責任をもった私たち教師自身があまり勉強をしていないという事（ピティナの先生方はそんな事がないと思います）、また勉強したくてもそういった場が少ないという事から、このままでは教師である私たちが、これからの音楽界を背負っていく大切な子どもたちの、せつかく伸びようとしている芽を摘んでしまうという大変な罪を犯すような気がしてならなかったからなのです。やはり教師である私たちがもっと勉強すべきだと思います。

私自身、音大を卒業して間もなく、大変未熟ではありますが、音楽をするものの心としては常に周囲に対して謙虚に、自己に対しては厳しくありたいと考え、音楽と



いうものは「心」が大切であると信じて参りました。楽譜を目で読み技巧で音を出すのではなく、心で読み演奏するのであると。私はこの精神で今後ピアノ音楽の向上の為、支部発展の為に貢献していく覚悟でございます。本部の皆様、また全国各地の会員の皆様、何とぞ暖かいご支援とご鞭撻をお願い致します。

最後に、発会式当日に素晴らしい講演をして下さいました福田先生、鈴木先生、そして場所提供など多大なご支援を下さいましたコダマ楽器の皆様方に心より敬意と感謝を捧げ、お力添え下さいました会員の皆様方に心よりお礼申し上げ、ごあいさつと致します。

——桜井秀美

子どもの教育から立て直しを

1. 若者のクラシック離れ

ちかごろ、ある女子大で次のようなアンケートをとった。132人のクラスで、「これまでに楽器を習ったことがありますか」というのに対し、「習ったことがある」が121人、「ない」は11人のみである。91%という数のものが楽器を習った体験をもっている。しかも、習っていた期間は、個々のバラツキが大きいのが平均して6~7年という長さである。その楽器の種類は、ピアノが73人で断然トップ。その他、オルガン、ギター、琴、マンドリン、クラリネット、フルート、三味線、中にはチェンバロも含まれているという具合で多彩である。ところが今でもつづいて習っているというのは、のべ18人にすぎない。内訳をみると、ピアノ5、ギター3、エレクトーン2、マンドリン2、琴3、あと、マンドラ、三味線、クラリネット各1である。大学でクラブに入っているというのが大半である。ほとんどのものが楽器から離脱している。その時期と理由は、受験のためが圧倒的であるのは容易に理解できる。中には、おもしろくなかった、嫌いだったというものも多い。

楽器を習った人たちは、クラシック音楽を習ったのである。受験勉強のため止めたというものも、大学に入っ



てからは、又やり始めることができる筈であるが、殆どのものがそれをしない。若者は音楽から離れてしまったというのではない。ロックやジャズやニューミュージックなど大いに楽しんでいる。クラシック音楽の良さを知らないでいるのである。かつて、クラシック音楽の分野で音に触れながら、その楽しさに入り切れないで終っている。クラシックの音楽人口の中心を占めるべきこれらの若者たちのクラシック離れは、日本の音楽界の将来に大へんな暗雲をなげかけるものといわざるを得ない。

2. 親の意識をどう変えるか

若者のこのような傾向をどのように考えたらよいのだ

ろうか。これは、今日の若者に見られる共通な特性のあらわれとみるべきであろう。無気力、無関心、無感動の三無主義世代の若者にとっては、自ら努力や訓練を必要とするものをさける傾向にある。イージーな方向に向かおうとする。ニューミュージックを楽しみ、ディスコに興じはしても、一步クラシックに深くつっこもうとしないのである。古典の文芸大作など見向きもしないマンガ世代なのだから仕方ないのかも知れない。

音楽関係者の方に問題があることも指摘されよう。とりわけ音楽教育のあり方も問われなければならない。しかし、問題点を探るより、どうしたらよいかを考える方が前向きというべきである。私は、子どもの教育の立て直しから始めるのが第一であると思う。子どもの教育は、学校教育と家庭教育からなるが、ここでは後者に限って触れたい。家庭教育は親がその主体であることはいうまでもない。

今日の親は、受験競争における尺度でしか子どもの能

力を評価しないのである。受験のためには子どもの活動の全てを犠牲にしてしまう。ピアノなど先ず第一にやり玉にあげられる。学歴社会はすでに終わっていることを知らない親は、実は時代遅れなのである。個人ひとりひとりがどのように独創的な能力を発展させるかの時代となっている。「ほんもの」の能力を子どもに与えるべきである。急激に変わっていく社会の環境に対して、常に前向きに積極的に取り組んでゆける人間に育てなくてはならない。受験戦争のいう学力とは、脳の左半球がその役割を果たすのだが、音楽、美術などの能力をつかさどる右半球の訓練を怠ると創造的能力を伸ばすことができないのである。子どもの時に右半球をお留守にされた子どもたちが、今日のシラケ世代の受身人間となっているのである。伸びる子どもを育てるにはどうしたらよいかを願って『母親のための教育学』（神戸新聞出版センター）を書き、若いお母さん方に意識の転換を訴えかけている次第である。

——神戸大学教授 鈴木正幸

支部開設のおさそい

全日本ピアノ指導者協会は、会員の皆様のお力添えにより、本年度で創立15周年を迎えることができました。これを契機に、全国に散らばる会員の皆様の活動を、より活発に、よりスムーズに進めるために、支部の運営をして下さる有志の方を募っております。支部結成の大きな規約は次の通りです。

1. 有志の会員5名以上集まりますと、支部結成の申請ができます。
2. 公開講座、コンサート、公開レッスンなど、年2回以上の催物を主催して下さい。催物の会計について、本部への報告義務はありません。また、2カ月以上前に本部へご連絡下されば、会報で全会員に知らせることができます。
3. 年1回以上の課題曲による検定を実施して下さい。ただし、20人以下の場合、中止となることがあります。
4. 催物の会員への連絡、新入会員の手続き、様々な情報

の伝達など、地域の会員の方のお世話をして下さい。
5. 楽器店、書店等の団体が支部のお世話をして下さいの場合は、賛助会員になっていただきます。本部は、毎回会報に、広告を掲載いたします。
詳しい規約につきましては、本部までお問合せ下さい。本部と各地区とのつながりを強めるため、地域のピアノ教育向上のため、皆様のご基力をお願いいたします。
(連絡先) 全日本ピアノ指導者協会事務局 下村迄
TEL 03 (944) 1581

大阪支部の住所が変わりました。会員の皆様への御連絡が遅れ、ご迷惑をおかけいたしましたこととお詫び申しあげます。

〒541

大阪市東区備後町4-41

TEL 06 (264) 0133

静岡県産業ビル 浜楽商事内

(片淵)

楽器のデパート

塚本楽器

(近江八幡支部のお世話をしております)

〒523 滋賀県近江八幡市堀上町145の6

TEL 07483-3-5198

ピアノ・エレクトーン・ステレオ

琴光堂楽器

(上田支部のお世話をしております)

〒386 上田市大手1丁目10番6号

TEL 0268-22-0551